

第 22 回奈良市文化振興計画推進委員会 会議録

開催日時	平成 29 年 2 月 13 日（月）午後 2 時から午後 4 時まで	
開催場所	奈良市役所北棟 6 階 第 19 会議室	
議題	1 開会 2 会長挨拶 3 現況報告 ・東アジア文化都市について ・第 32 回国民文化祭・なら 2017 第 17 回全国障害者芸術・文化祭奈良大会について ・入江泰吉記念写真賞について ・なら 100 年会館の地域創造大賞受賞について 4 文化振興計画事業評価について 5 文化振興補助金の公募化について 6 文化振興計画の改定について 7 その他	
出席者	委員	中川会長、萩原副会長、中野委員、山本委員、山下恭委員 【計 5 人出席】
	事務局	澤野井市民活動部長、松田市民活動部次長、柴田文化振興課長、槇田東アジア文化都市推進課長、植松課長補佐、土井主任、佐藤（以上文化振興課）
開催形態	公開（傍聴人 2 人）	
決定事項	●文化振興計画事業評価シートについて、今回のシートで一度評価を行う。 ●市民文化型、都市文化型の補助金募集要項案を次回までに新たに作成する。 ●シネマテークを新たに文化振興計画に入れる。 ●今回の会議録の署名は、中川会長と山本委員が行う。	
担当課	市民活動部文化振興課	

議事の内容

1 開会 事務局より本日の会議の成立について説明した。
2 会長挨拶 開会にあたって中川会長から挨拶。本日の署名委員は中川会長と山本あつし委員であることを確認した。
3 現況報告 下記項目について、事務局より報告した。 ・東アジア文化都市開催について（クロージングの様子と現在の状況、来年度の見通しについて） ・第 32 回国民文化祭・なら 2017 第 17 回全国障害者芸術・文化祭奈良大会について（奈良市プレイベントの開催について、実行委員会の立ち上げについて）

- ・入江泰吉記念写真賞について（受賞者の決定、今後の予定について）
- ・なら１００年会館地域創造大賞受賞について（評価された点について）

委員からの質問・意見は次のとおり

- ・写真賞について、審査は６人で出来たのか、どう行ったのか
（事務局回答）すべての作品に目をとおして選定した中から精査した。最終的に３作品ほどが残り、入江賞にふさわしい作品とはという観点から激論を交わし、受賞作確定。
- ・国文祭について、奈良市の事業は文化振興計画に繋がるように今後の見通しもたてて考えるべき。外から来たものと捉えないでほしい。

４ 文化振興計画事業評価について

文化振興計画事業評価について、前回の意見を反映して作成した事業評価シートを提示して説明を行った。評価の指標をより具体的かつ客観的なものとする他、事前に目標を書き込むようにすること、記入者が記載しやすいように要所に注釈を増やしたこと等を報告。

委員からの意見等は下記のとおり

- ・参加者や協働相手からの意見枠について、協働相手からの「意見」等を考察して記入、という形にしてはどうか。
- ・文化振興基本計画に基づく目標値を設定するように指導する必要がある。また、事業によって目的が変わり、目標値も変わってくることは意識するべき。
- ・施設に計画を認識してもらう良い機会だと思う。計画を吟味した上で、目標を明確にすることを徹底するように指導すべき。
- ・評価シートを用いて、現状の課題を書き出し、課題を解決できる施策を行うべき。総括という単語ではなく、今後の課題として受け止めるようにすることが大切。

以上の意見を受け、一度これで評価を行ってみて改善を加えていくことを決定。

５ 文化振興事業補助金の公募化について

事務局より、補助金の公募化を進めることになった経緯を説明。平成 21 年度から 23 年度にかけて公募の制度設計を行ったことがあるため、その際の資料および近年の補助金に係る決算と予算、他事業や他行政の公募による補助金の募集要項を資料として提示して、現状での補助金公募化の案を説明した。

案の詳細は資料 3：「奈良市文化振興補助金」募集要項（案）のとおり

委員からの意見等は下記のとおり

萩原副会長

- ・補助金を公募することで、補助金のやり方を変えるのか新たな補助金を造る方向なのかはっきりさせた方がよい。新たな方向を打ち出すのであれば補助金の名前を変えた方がよいと思う。
- ・補助金募集要項の規定が細かすぎて条件が厳しい。間口は広げておいて精査する形でも良いのでは。

- ・基準について、誰がどう判断するのか。補助金の方向性によって基準も議論すべき。
- ・予備エントリーし、本エントリーを3月にする形式ではどうか。議会の結果を待ってから決められるし、会場の変更等の問題にも対応できる。

山本委員

- ・応募者の視線から考えると、要項が煩雑すぎるのももう少し簡略化して文言や表現の工夫が必要。
- ・一番重要なのは目的なので、その目的に対してどういった手法をとるのかを問う細かい欄をつくっても良いのでは。
- ・奈良市の名誉、とは何を指すのかははっきりさせた方が良い。
- ・この案では7月応募で来年度のことを書かなければいけないので、相当先の見通しをたてている団体しか応募できない。また、議会で通らなかった場合も考えなければならない。ただし、県では承認が7月以降になり春の事業が出来ないので、これはこれでいいのかもしれない。
- ・補助対象経費の3割は少なすぎると思う。

山下恭委員

- ・未来の事業のため、審査の段階で会場が決まらないものも出てくる。もし施設が取れず、市外の施設になった場合は補助金の対象外となってしまうのは問題があると思う。
- ・団体の基準と事業の基準を分けて考える必要がある。
 - ▶例えば、事業が公益的なものであっても事業者が宗教団体の場合はどうするかの基準ははっきりさせておくべき。今回の要項では、宗教団体は外される。日本文化には宗教がバックボーンに宗教が絡んでくるものが多いため、基準は明確にする必要がある。
- ・代表者が年ごとに変わるような団体では、申請時と実施時で代表者が変わる可能性がある。

中野委員

- ・毎年、同じことを続けていく、ということも価値とみなす必要はあると思う
- ・1/3 補助、上限 50 万で都市格向上を考えるとどれほどの事業が出来るかは疑問だ。
- ・50 万以上補助し、ある程度続いている事業について、市と団体の協働が深める必要もあるのでは？
 - ▶例えば、なら燈花会では月1の集会で、県・市の担当者も参加し、行政の意向も入っている。

中川会長

- ・市民文化のための補助金／都市文化のための補助金はわける。
- ・都市格、という言葉は議会には通じないのでシティプロモーションと書くといいのでは。また、市民には通じないので言葉を考え、具体例を出す。
- ・市民文化の補助金は上限 50 万はいいと思う。ただ5割にした方がよい。
- ・100万越え補助金は都市文化活性化型になる。補助金の上限については、行政の財政状況と相談して決断したら良いと思う。
- ・補助金申請の書類は出来るだけ簡潔にして指導した方がよい。下手をしないと知らない軋轢を生む。
- ・新規性、新規参入性、学校教育や福祉施設との連携も考えてほしい。教育・福祉・医療、地域コミュニティとの連携もしてほしい。

評価の指標について（中川会長、萩原副会長）

- ・シティプロモーションの視点で考えれば、継続性にも価値を与えられる。
- ・将来的には補助金がなくてもやっていける事業となるような自立性も評価の指標とするべき。逆に、絶対に自立できない伝統芸能などの事業は継続性を高く評価すると良い。
- ・事業の性質によって判断基準の強弱が変わるように規定を作っても良いと思う。

以上の意見を受けて、次回までに市民文化型の補助金募集要項案（今回の案を改訂したもの）と都市文化型の補助金募集要項案（新規作成）の二つを作成することを決定。

6 文化振興計画の改定について

- ・映画祭の同心円の事業であるシネマテークを都市格に資する事業として文化振興計画に入れることに決定した。

7 その他

- ・次回の開催日程は後日調整する。